

保護者様

あおぞらキンダーガーデン

あおぞらキンダーガーデンでは、静岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例に基づき、2020年度の自己評価と保護者評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

2020年度 自己・保護者評価報告書

1 あおぞらキンダーガーデンの保育目標及び本年度の重点目標

- 子ども像 1 自分を大切にし、仲間と共に育ち合う子ども（自己肯定感と他者理解）
- 保育目標 1 自分を大切にし、仲間と共に成長する
2 まわりのものに深い関心を寄せ、感動できる
3 じょうぶな体をもつ
4 自分の発見や考えを豊かに表現できる

これらの目標を達成するために、「乳幼児理解と育ちの記録・あそびの考察」「生活の充実」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

2 評価項目の及び取組状況（A=よくできた B=ふつう C=できなかった）

(1) 保育

日常の保育を丁寧、充実して実践を重ねることを大切にしてきました。そのための研究システムを作り、職員全員で「実践、分析、討議」を大切に研究し、子どもの育ちが豊かになる保育を創ってきました。

評価項目	自己評価	取組状況	委員会評価
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	自己学習を充実し、小さな討議・まとめを繰り返す中で、深くこども理解と実践を深めました。	A
②保育環境研究	B	「保育環境」をつくるのが保育実践では重要です。昨年度より改善を進めましたが、より保育環境を進めていきたいと思っています。	A
③具体的な保育内容を考える	A	厳しい状況の中、日常の小さな学習会で、日常の子ども理解を深め、保育問題研究会全国大会に実践を提出し保育内容の充実を図りました。	A
④保育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを保育課程に照らし合わせ、年1回、父母の協力を得て全職員で保育課程の見直し充実をしました。	A
⑤保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	クラス便りを子どものつぶやきを中心に、保育の様子、子どもの様子保育者の考えが伝わるよう随時発行しました。保育参加・懇談、行事等に子どもや保育について分かりやすい言葉で伝えることに心掛けました。連絡帳の活用や送迎時などに積極的に会話をするを心掛けました。園だよりを定期的に発行し、ホームページは随時更新しました。	A

(2) 運営

評価項目	自己評価	取組状況	委員会評価
①教職員体制の改善、向上	A	正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習・運営をすすめています。	A
②保育環境の改善、向上	A	保育実践実現のための室内外、設備の補充や安全点検を進めてきました。園庭や室内の環境づくりを随時整えてきました。	A
③運営全体について	A	11月11日静岡市の監査において保育内容の評価をいただき、特に大きな改善事項はありませんでした。	A

3 本年度の重点目標の総合的な評価結果 (A=よくできた B=ふつう C=できなかった)

A	集団研修がコロナ禍の中で難しい1年でしたが、「自己学習」の充実を図り、子ども理解、保育実践の課題がある時にプリントを配布し、会議の短縮を図り、学習、研修を進めた結果、例年と変わらず豊かな保育実践の創造と保育者のスキルアップが図れたと思います。
---	---

4 こども園関係者評価委員会からの意見 (A=よくできた B=ふつう C=できなかった)

A	<ul style="list-style-type: none"> ❖コロナ禍の状況に柔軟に対応し、園児、職員への配慮や良好な保育環境の維持、改善に努めていると思います。 ❖マスクの使用について、先生方も多くの不安を抱えている中、こどもの今のところとからだの発達と同時に未来のところとからだの発達やこどもの安心を見据え、専門家の意見を交えてこどもたちと相談しながら対応を考えて頂き本当に安心できました。 ❖仕事の大変さとコロナの不安を抱える中、送迎時園の中は普段と変わらない日常の風景があり、ホッとしました。 ❖コロナウィルスにより大変厳しい状況の中でしたが、こどもたちにとって最善の利益を考えた保育を行ってくれました。人と人とのつながりが希薄になるおそれがある中で、子と子、子と親、親と園のつながりを保つはたらきかけをしていただきました。また対面でなくても、つながる機会やこどものことを知り学ぶ機会をつくっていただきました。
---	--

「2020年度 あおぞらキンダーガーデンに関するアンケート」の報告

実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(配布枚数90 回収枚数79回収率88%)

	はい	どちらでもない	いいえ
ア お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	76人 (96%)	3人 (3.7%)	0人 (0, 0%)
イ お子さんが「成長したなあ」と感じることはありますか	79人 (100%)	0人 (0. 0%)	0人 (0. 0%)
ウ お子さんは基本的な生活習慣が身に付いたと思いますか	78人 (99%)	1人 (1.0%)	0人 (0. 0%)
エ 保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	73人 (92%)	5人 (6.3%)	1人 (1. 0%)
オ 連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	79人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0. 0%)

3 今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況をつかみ、課題を見つけ楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	子どもの今の「ありのまま」をつかみ、共感し保育を創る中で、親との信頼関係・ネットワークを構築し、子育てのパートナーになる様に、保育を進めていく

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、親も子育てを通して親になる喜びを感じる事が難しい時代となっています。園では、子どもをまんなかみして「子どもの最善の利益」をもとめ、パートナーになり、保育実践を進めていきます。

その為、子どもと親の理解を深め、より専門的な保育の知識や方法が必要となり、新しい多様な視点をもって、学びを深めていきたいと思っています。

これからも、あおぞらの歴史の中で大切にしてきた実践の中核を確認し理論と実践を深め、さらに新たな保育方法を学び、保育の質を高めていきます。